

平成31年度 府立亀岡高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）計画段階

学校経営方針		昨年度の成果と課題		本年度学校経営の重点	
<p>生徒一人一人が個性や能力を伸ばさせ、自立的に社会に参画し、人権尊重を基盤として、共に支え合いながら、地域社会の一員としての役割を果たすことが求められています。</p> <p>このため、教育目標や教育方針に基づき、数理科学科・普通科・芸術系が、それぞれの特色や持ち味を生かしながら、切磋琢磨し、学校の活性化を図ります。</p> <p>特に、次の3点を学校経営の基本方針とします。</p> <p>(1) 質の高い学習指導と確かな進路実現の具現化 (2) 社会的自立を図るために必要な能力の育成 (3) 地域・保護者に信頼される学校づくり</p>		<p>◆昨年度の成果(○)と課題(△)</p> <p>○新学習指導要領や高大接続改革を踏まえた学校改革の議論が具体化し、新学科設置、単位制導入の方向性が定まった。</p> <p>○「ジェネリックスキル」(総学)等を通じて、カリキュラム・マネジメントの視点で教育活動を充実させることができた。</p> <p>○「亀高Can-Doリスト」の活用が定着し、「社会に通じる人」育成の取組を充実させることができた。</p> <p>○数理科学科における探究活動の充実を図ることができた。</p> <p>○生徒が主役となった学校説明会など、生徒が主体的に取り組む場面を多く作ることができた。</p> <p>○大学進学実績については、昨年度よりも躍進した結果となった。</p> <p>○地域と連携した取組や社会貢献など、美術・工芸専攻の取組を充実させることができた。</p> <p>○関係法の趣旨に基づき、人権教育の質向上、相談体制の充実を図ることができた。</p> <p>○特別活動、部活動、生徒会活動の充実により、生徒の自主性の育成を図ることができた。</p> <p>○読書啓発活動を充実させることで、図書館利用が昨年度と同様の高水準となった。</p> <p>○トビタテ留学ジャパンや海外中期・短期留学への参加など、海外に目を向ける生徒が増えた。</p> <p>○コンプライアンス意識、安心・安全の意識の向上を図ることができた。</p> <p>△主体的・対話的な学びに向けての組織的な授業改善にはさらなる工夫と努力が必要である。</p> <p>△数理科学科で積み上げてきた探究活動等の成果を新学科への接続に活かす必要がある。</p> <p>△新学科設置、単位制導入に向けた様々な準備を、組織的に進める必要がある。</p> <p>△中学生への積極的な広報を展開したが、定員割れが起こるなど一部に課題を残した。</p> <p>△Twitterによる発信を頻繁に行ったが、HPの更新については課題を残した。</p> <p>△部活動の環境整備については、今後も改善の余地がある。</p>		<p>◆本年度学校経営の重点</p> <p>(1) 社会や世界と向き合い、自分の人生を切り拓く資質や能力を育成する。</p> <p>(2) すべての生徒の学力の充実と、組織的・系統的な進路指導を行う。</p> <p>(3) 主体的・対話的で深い学びの研究により授業の改善を進め、学びに向かう力・人間性を育てる。</p> <p>(4) 高い規範意識をもつ集団づくりに努める。また「総合的な探究の時間」「ジェネリックスキル(総合的な学習の時間)」の実施を通して、学力のさらなる伸長と「社会に通じる人」の育成を目指す。</p> <p>(5) 令和2年度の学校改編に向けた教育課程を検討し、普通科・専門学科の教育活動の在り方を考える。</p> <p>(6) 部活動の活性化を図る。また部活動、特別活動を通して「身につけさせたい力」を涵養する。</p> <p>(7) 本校の教育活動全般を周知して本校の教育活動への理解を深め、志願者を増加させる。</p> <p>(8) 障害者差別解消法や部落差別解消推進法などの趣旨に則り、人権尊重の視点を持ってあらゆる教育活動に取り組む。</p> <p>(9) いじめの防止に取り組むとともに、支援を必要とする生徒に対して学校内・外部機関等との連携により、必要な支援を組織的に行う。</p> <p>(10) 学びの基盤となり、人生を豊かにする読書への積極的な姿勢を醸成する。また地域や社会に貢献する姿勢を育成する。</p> <p>(11) すべての教員が高いコンプライアンス意識を持ち、協働して教育課題に取り組み、本校教育に寄せる信頼を高める。</p>	
評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題	
組織・運営	「社会に通じる人」育成を目指す学校改革の推進と魅力ある学校づくり	1 成績処理等の円滑な実施など教職員の負担軽減に向けた業務改善に努める。			
		2 高大連携の取組など普通科における特色ある教育活動をさらに充実させる。			
		3 美術・工芸専攻における指導の工夫を図り、従来の取組をさらに充実させる。			
		4 数理科学科の探究活動を、普通科への波及や影響を踏まえながら深化させる。			
		5 ホームページ、パンフレットを充実させるなど、入学生の募集及び広報を効果的に行い、志願者を増加させる。			
		6 単位制移行及び新学科設立に向けて、教育課程や選抜業務等の入念な準備を行う。			
		7 数理科学科で積み上げてきた成果や実績を新学科への接続に活かす。			
		8 スマートスクール推進事業の準備を進め、効果的なICTの活用方法を研究する。			
教育課程 学習指導	確かな教科学力とジェネリックスキルの育成	9 わかる授業、力のつく授業を行い、生徒の授業満足度を高める。			
		10 (1年) 基本的な生活習慣の確立を図り、家庭学習習慣の定着を図る。			
		11 (2年) 生徒が主体的に学ぶ環境作りに励み、学力伸長、学習時間の増加を目指す。			
		12 (3年) 学習環境を整え、生徒が主体的に学ぶ仕掛け作りを行い、進路実現をサポートする。			
		13 「ジェネリックスキル」の取組を通して、社会に通じる力を高める。			
		14 集中読書や「honstagram」などの取組を活性化させ、読書習慣のさらなる定着を図る。			
進路指導 キャリア教育 生徒指導 人権教育	将来を見据え、志をもって進路にチャレンジする生徒の育成	15 高大連携、地域連携や卒業生の協力を得た取組など、将来像を描くためのキャリア教育を充実させる。			
		16 「Can-Doリスト」を積極的に活用して、学校生活の中で社会に通じる力を高める。			
		17 希望進路を実現するために組織的・計画的な進路指導を充実させる。特に国公立大学については35名以上(うち推薦10名以上)の合格を目指す。			
		18 普通科アカデミア・スタンダード、美術・工芸専攻及び数理科学科それぞれの特色を活かした希望進路の実現を図る。			
	豊かな人間性をはぐくむ教育	19 (1年) 部活動への積極的参加を通して健全な心身の発達を目指す。			
		20 (2年) 学年内だけでなく他分掌、教科や保護者と日常的に連携をとり、丁寧な指導を行う。			
		21 (2年) 高校生活最大の行事である研修旅行で、生徒自身が深い学びを得ることを見据えた指導を行う。			
		22 (2年) 3年生でのリーダーシップ発揮に向け、行事や部活動など学校行事を充実させる。			
		23 (3年) 各分掌、教科、保護者と連携を密に図り、丁寧な指導を行う。			
		24 (3年) 最高学年として部活動や行事等で1・2年生を牽引できるリーダー性を養い、学校生活の充実を図る。			
		25 (3年) 他を思いやる心の育成を図り、何事にも協力して取り組むことができる学年作りを目指す。			
		26 規範意識を涵養し、基本的な生活習慣の確立、帰属意識の高揚を図る。			
		27 体育・スポーツ活動や芸術文化活動の活性化と学校行事及び特別活動の充実を図る。			
		28 自他の生命や人権の尊重を基盤とした正しい判断力と実践力の育成に努め、人間としての在り方・生き方を深く考えさせ、社会の一員としての自覚を促す指導の充実を図る。			
		29 教育相談会議、特別支援会議を充実させ、支援計画などを基に連携を密にし、包括的に援助を行う。			
		30 いじめを許さない学校体制を構築し、教職員の連携した指導を充実させる。			
		31 人権学習の内容を再点検し、身近で自らの生き方に関わる問題として捉えさせる指導を行う。			
		32 家庭や地域、関係機関との連携を図り、課題の把握ときめ細かな指導に努める。			
安心・安全・健康的な環境	33 施設・設備の管理・改善を図り、健康で安全な学習環境の確保に努める。				
	34 健康診断の経過観察、事後指導を充実させ、生徒の健康管理、生活習慣の改善に努める。				
	35 清潔で学習しやすい環境を整えるため、清掃の徹底、用具の整備に努める。				
	36 美化委員会、保健委員会を充実させ、生徒が自主的に保健と美化の意識を高めるように指導する。				
グローバル人材の育成	37 異文化交流、異文化理解に関わる取組を一層推進する。				
研究指定等	府立高校特色化事業(スーパーサイエンスネットワーク京都校)、高校生伝統文化事業(伝統文化推進校)				
評価	A:十分達成できている(目標以上の成果が得られた) B:ほぼ達成できている(ほぼ目標どおりの成果が得られた) C:達成できているとはいえない(成果はあったが、目標に達していない) D:ほとんど達成できていない(ほとんど成果がなかった)				
学校関係者評価委員会による評価					
次年度に向けた改善の方向性					